

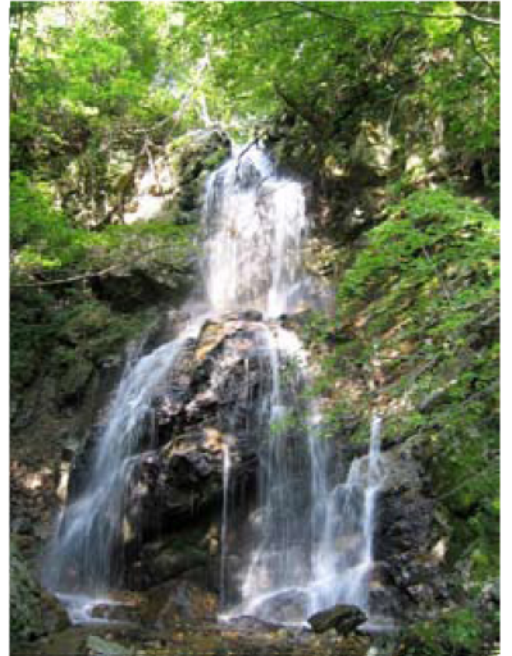
長井四季八景

長井商工会議所では、新しい観光スポットを探し育てていくために、この季節の、この時間に、この場所でしか体験できない感動の風景を長井市民のみならずから広く募集しました。

『こつこつ』と積み重ねられた時間がつくりだした美しい風景。『わくわく』する体験が味わえる、とっておきの場所。そんな、みなさんが『あるある』と思う風景が集まりましたのでご紹介します。



古代の丘 春の花畑



深緑の不動滝(三階滝)



紅葉のながい百秋湖と三淵溪谷



ゆっくり歩いて渡ろう白川橋

長井市地域ブランド創出事業 長井四季八景 観光資源発掘コンテスト 審査結果一覧

	春	夏	秋	冬
最優秀賞	古代の丘 春の花畑 西根地区 応募者：椎名隆さん(69/長井市草間) 古代の丘は四季を通じて美しい景観を見せてくれますが、特に4～5月に水の広場周辺に出現するミズバショウやカタクリの群生はとも見ごたえがあります。特に山の斜面を覆いつくすカタクリの花は息をのむ美しさです。	深緑の不動滝(三階滝) 西根地区 応募者：丸川正幸さん(59/長井市巾着) 木々に囲まれた、小さなほころと滝の水音。心身共に落ち着き、誰もが癒しの時をいただける処です。言葉では表現できない程の感動が得られます。自然の力に感謝です。私にはありがたい処です。	紅葉のながい百秋湖と三淵溪谷 平野地区 応募者：佐藤五郎さん(69/長井市新町) 長井ダム(百秋湖)の上流部にある野川溪谷の一つで、花崗岩が深く刻まれた高さ数十メートルの断崖絶壁が数百メートル続く三淵溪谷。屋でも暗い静寂の空間は、人を寄せ付けない神秘的空間となっている。約1000年前の豪族安倍貞任の娘、卯の花姫が裏切られた悲劇と後悔の怨念を秘めて身を投じた場所とも言われ、また長井に伝わる黒獅子舞のルーツ(奥の院)にもなっており、地域から深く信仰されている神聖な地でもある。	ゆっくり歩いて渡ろう白川橋 豊田地区 応募者：小関進さん(64/長井市九野本) 南から橋を渡り始めると、西山が迫って徐々に街並みが見え、西には川に浮かんだ飯豊山と川面に浮かぶフワフワ長井線、羽を休める白鳥とのコラボ。川沿いの森林公園に日の出から黄昏まで、パノラマの絶景が映るシーンの様です。今更ですが、意識して歩いてみたら様々なシーンが。晴天も最高で少し厳寒の日も絶景ですね。
	慶助じいちゃんの梅林(中央) 最上河畔のおよそ1000坪の土地に、50種類・543本の観賞用の梅が植えられており、桜より一足早く長井に春を告げます。この梅は沢山の人の楽しんでもらいたいと十年ほど前から一本一本植え始め、手入れと剪定を続けてきました。それぞれの木には梅の種類を書いた札が付けられ、様々な名前を見るのも楽しみです。	時庭の夏、林耕田に咲く大賀蓮(豊田) この蓮は、6年ほど前から地元有志が200株程の苗を求め、休耕田をお借りして植え付けたものです。今では、10a広がり、8月上旬から咲き始め下旬まできれいなピンクの花が観られます。また、場所もよく駅の北西200メートルに位置し、そこからは、長井線の列車は勿論、西には三休、東山、朝日連峰が観られる絶景のポイントであり、アマチュアカメラマンの人気スポットとなっております。	トロッコ道(豊田) 愛宕山と河井山・今泉山の間を狭い谷間に掘削し、川幅を広げる工事の際砂利を運んだトロッコの軌跡を道歩道として整備されたトロッコ道。最上川(松川)の流れを見ながら、紅葉の河井山を愛でて歩く小道は、長井を代表するフットパスコースとして知られ、全国的なイベントも開催されている。爽やかな秋風と最上川の水のせせざきを感じながら歩く感覚は、多くのウォーカーを魅了する。	置賜野川石淵溪谷(平野) 冬、黒獅子の荒々しさを感じさせる地吹雪の中の清流で、県内で唯一、市街地から10分で行ける渓谷です。
優秀賞	最上川と置賜白川の合流地点(豊田) 最上川と置賜白川が合流するビューポイントとして知られ、平成10年に山形県が最上川沿いの特に優れた景観を有する10地点の一つに選ばれている。松川(昭和40年4月から最上川)と置賜白川が合流して最上川になっていたことから、「最上川発祥の地ながい」とも呼ばれており、流れが穏やかな松川(最上川)に、流れの速い白川が渾身を立てるように流れ込むことによる白波が美しい。また青葉となる東山と一体となった新緑の眺めは絶景である。	大締切堤防(平野) かつて長井ダムが無かった時代、野川扇状地の扇頂部が一気に390度変化する特異な地形であることから、大雨の度に扇頂部付近で高水が溢れ、長井の町場や最上川舟運の船着場などを襲い甚大な被害をもたらしていた。このため、江戸幕府と米沢藩が協力を得て大堤防の築切堤防で、安永年間(1782)に完成し、現在堤防として機能している全体的にも貴重なもの。江戸、明治、昭和時代の法面が三層に重なる、深緑の山々と野川の流れる美しい。	西山沿いの散居集落(豊田・平野・西根) 長井市の豊田・平野・西根の西山沿いにある農村風景は、歴代に囲まれた家々が点在する散居集落となっている。多くの家では、年間じわじわと西方から吹き付ける強風を弱めるための杉の歴史林を有し、周囲の田畑による自給自足を基本としていたと思われる点在した家々の配置は、隣接する飯沼町と連担した特徴ある農村風景となっている。豊かに暮らす穏和した風景が秀麗。	水田地帯に舞い降りる白鳥の群(致芳) 葉山連山を背景に冬のたたずまいとなった広い水田にわずかな落穂を求めてくる白鳥の群。一見、荒涼とした風景に思いますが初冬の風物です。
	立体交差の水路(中央) 長井市は、古くから清沢野川から引き込んだ水が市街地を縦横に走る水路を築き、生活用水や防火用水、さらに治水や水田など町場住民の生活を支えてきた。このような水路のなかで、ひと際目立つのが小田地区四ツ谷(長井親善西側)にある2本の水路が直交する立体交差の水路で、上側水路の流量が増加すると、溢れた水は自動的に下側の水路に導かれて落下する構造になっている。全体的にも珍しいもので、春の息が清涼。	魚が泳ぎ梅花藻が咲く水路(中央) まち中に張り巡らされた水路には、小さな魚がたくさん泳ぎ、7月から8月にかけて水がきれい流れがあり一定の水温など条件揃ったところしか咲かない梅花藻がある。長井のまちなかにある水路の多くは橋もなく、川沿いに歩く小道も整ってより身近に感じるところが多い。	祝瓶山と長井ダム(平野) 長井市の北西に位置し、朝日連峰の西南端に聳る祝瓶山(1417m)は、南東側から雄大な山容が秀麗な三角錐をなすことから東北のマッターホルンと称され、日本3百名山に数えられ、山岳信仰の山としても知られている。また、朝日連峰の南端から流れ出た清冽な水を集めているのが、平成23年に完成した長井ダムで、堤長381m、堤高125.5mの規模は東北屈指の大きさで、洪水調整、農業用水、発電など多目的機能を果たしている。紅葉の祝瓶山は絶景。	東北のリトルアルプス、葉山連山の山並み(致芳) 置賜野川左岸～白旗町東側川右岸までの葉山連山の山並み。南から朝日連峰、おけさ嶺、葛永嶺、昭和嶺、中央には出羽丘陵の一角朝日岳に連なる置賜葉山、北側には朝日連峰、愛染峠が見える。また、田沢川や大船沢川など、北の荒々しい絶壁が聳える。四季折々の景色をまとい、風光明媚で長野県安曇野からの北アルプスの眺めに例えられる。「山の日の祝日」に合わせて「東北のリトルアルプス」と名付け、ビューポイントを探したい。
佳作	白川フットパス(豊田) 八ヶ森自然公園の桜と残雪の山なみ(豊田) 21世紀不伐の森から眺める朝日連峰の山々(平野) 最上川フットパス 残雪に映える桜(中央)	八ヶ森自然公園のヒメサユリ(豊田) 西山と最上川舟運(中央) 平野川沿いのフットパス(中央) 渡し舟跡地 最上川全景(致芳)	白川流域に広がる田園風景(豊田) 鉄道遺構「今泉電車台」(豊田) 不伐の森展望台(伊佐沢) 向山荘から見たりんご畑(伊佐沢)	外田公園(中央) 白川と白川鉄橋(豊田) フラワー長井線の車窓と葉山連山を望む(致芳) 山岳信仰の山、置賜葉山(致芳)